

GLOBAL TIMES VOL.7

能勢高校のスーパーグローバルハイスクールSGH(平成27年度より5年間の指定)の取組は、今年度、3年目の活動に入りました。この事業は、高校生が実際に海外に行き、現地調査などを通して国際経験を積み、グローバルな人材を育てるための研究開発です。スーパーグローバル講座は右図の通り4つの講座から構成されています。

海外・国内実態調査

本年度は10～11月にかけて2年SG重点分野講座受講生13名が調査を行います。マレーシア(半島、ボルネオ島)ではエビの養殖場やパームオイルプランテーションなどのフィールドワークを行い、宮城県気仙沼市では牡蠣の養殖場を視察します。

成果発表・発信

課題研究の成果を英語で発表します。

- ・豊中高校とプレゼンテーションで交流：7月18日(火)
- ・海外発表：10月31日(火) プトラマレーシア大学(クアラルンプール)にて
11月3日(金) スウィンバーン大学(サラワク州クチン)にて
- ・中間発表：11月22日(水) 能勢高校体育館にて
- ・最終発表：2月4日(土) 浄るりシアターにて

Super Global 講座

- 基礎知識講座
- 重点分野講座
- 英語特別講座
- 課題研究(海外研修)

講座と講師の紹介 (Lecturers)

●1年 SG 基礎知識講座

第1回 5/22(月) 『児童労働』～世界の児童労働問題を考える～



●中島 早苗 さん(NGOフリー・ザ・チルドレン・ジャパン(FTCJ) 代表理事・事務局長)

フリー・ザ・チルドレンとは、飢餓や児童労働などの過酷な環境におかれた子ども達の権利を取り戻すため、国際的な活動を展開している団体です。ワークショップでは、与えられたミッションをクリアすることで貧富の差の本質に気が付き、自分達にできることは何かを考える貴重な機会となりました。

第2回 6/22(木) 『モンゴル』～モンゴルとわたし～

●今岡 良子 さん(大阪大学言語文化研究科准教授)

今岡先生自身の生い立ちや、なぜ勉強するのかなどのお話から始まり、モンゴルの気候等の概要や、ストリートチルドレンに関する内容、また、能勢高校と今岡先生が今までに行ってきたモンゴルに関する取組みなどをお話いただきました。モンゴルについての基礎的な学習を行いました。



第3回 7/13(木) 『世界で活躍するNGO オイスカ』～NGOの果たす役割「地球環境保護活動・異文化理解・国際交流」～

●清水 利春 さん(オイスカ関西研修センター所長)

地球環境を考えながら「教育と開発」を促進する国際NGO「オイスカ」の国内外での幅広い活動と国際NGOの役割についてお話いただきました。また、3名のフィリピン人研修生が日本語で自身についてのショートスピーチを行いました。清水さんは、「今後、日本社会で外国人労働者の数は増え、我々が今回のように異文化に触れる機会は確実に増える。それぞれが‘共生’について考えることが重要である」と語られました。



●2年 SG 基礎知識講座

第1・2・3・5回 『日本伝統文化学習：紙芝居』～街角の日本伝統芸能～

●安野 だんまる さん(ヤッサン一座 プロ紙芝居師)

4月18日(木)、5月9日(火)、6月6日(火)、7月11日(火)の放課後、安野だんまるさんと弟子のぼんまるさんをお迎えし、『日本伝統文化の継承』と『プレゼンテーションのツールとしての紙芝居』という視点でワークショップとご指導を行っていただきました。言葉が通じなくても、絵やユーモアを使って相手とコミュニケーションを深める方法を実践的に学びました。



第4回 6/28(水) 『ボルネオ保全』～パームオイルとボルネオ環境保全活動～

●小辻 昌平 さん(サラヤ株式会社)

サラヤは「ヤシノミ洗剤」のメーカーとして知られており、マレーシア・ボルネオ島で採れるヤシノミを洗剤の原材料としています。マレーシアの歴史や文化を学び、アブラヤシから採れるパームオイルを生産するために熱帯雨林が乱開発されている現状を学習しました。来年1月実施の修学旅行で訪問するマレーシアについての事前学習となりました。



●2年 SG 重点分野講座

スーパーグローバルスタディ (SGS)

課題研究指導 ●乾 陽子 さん(大阪教育大学准教授 教育学部 化学生態学研究室)

「マングローブ林とエビ養殖」「熱帯雨林とプランテーション」をテーマに課題研究を進め、グローバルな課題に対してローカルな視点で捉える力を育てていきます。



第1回 4/13(水) SG重点分野講座オリエンテーション

第2・5・6・9・10・12 課題研究講座

『マレーシア 経済発展と自然破壊』～熱帯雨林とパームオイルプランテーション～

●祖田 亮次 さん(大阪市立大学大学院 文学研究科 地理学教室 教授)

4月25日(火)より「スーパーグローバルスタディー(SGS)」にて、『マレーシア 経済発展と自然破壊～熱帯雨林とパームオイルプランテーション～』をテーマに講義、ワークショップを進めています。

第3回 5/2(火) 『能勢菊炭と里山保全』

●小谷 義隆さん(能勢さとやま創造館代表)

能勢町伝統の「菊炭」を焼く職人である小谷さんより、菊炭とクヌギ、里山保全など環境保護についてのお話を伺いました。また、小谷さんが出演されているVTRを鑑賞し、バイオエネルギーとしての炭に循環型社会を実現化する可能性が秘められていることを知りました。

第4回 5/9(火) 『SG講座の学び方』～SGHの学びを地域に活かす～

●斉藤 俊幸さん(地域再生マネージャー)

自身のコスタリカでの体験を踏まえ、英語力のレベルアップには、「経験と時間」の積重ねが大切であると話されました。また、斉藤さんが取り組んでこられた地域再生事業の事例を挙げ、「一村一品」や「フェアトレード」の重要性について学習しました。

第7回 6/6(火) 『フェアトレードのしくみと実際』

●斎藤 和子・テリーさん(フェアトレードショップ & カフェ 『エスペーロ能勢』オーナー)

フェアトレードショップを営む和子さんからフェアトレードとは何かについて、特にコーヒーのフェアトレードの仕組みについて学習しました。ご主人のテリーさんからは、荒廃していた築100年以上の古民家を店舗として再生させたご自身の体験を伺いました。能勢の地域活性化のために古民家の活用を、世界の貧困問題に貢献するためにフェアトレードを実践されているご夫婦は、まさにグローバルを体現されていました。



第8, 9回 6/13(水),6/20(水) 『マレーシア 環境破壊と経済発展』～エビの養殖とマングローブの植林～

●田和 正孝さん(関西学院大学 文学部 文化歴史学科 教授)

マレーシアでは、マングローブ林を伐採し、養殖池を造ってエビを収穫していることで、環境破壊が深刻な問題となっている現状を学習しました。また、マングローブ林の伐採からエビの養殖技術、加工、流通、消費までを学んだことで、環境問題から経済活動まで幅広い視野を養うことができました。

第11回 6/26(月) 『世界の植生、日本の植生、猪名川上流域の植生』～大阪みどりのトラスト協会～

●服部 保 さん(兵庫県立大学 名誉教授)

マレーシアを始め、世界には気候的自然植生がどのように分布しているのか、そしてそれぞれの植生にはどのような特徴があるのかを学びました。また、ほとんどが人の手が加わった代償植生となった今日の日本で、能勢町における妙見山の夏緑樹林や地黄湿地がどれほど貴重な存在なのかを知り、自然を守り続けることの大切さに改めて気付く機会となりました。



●3年 SG 基礎知識講座

第1回 6/22(木) 『旅が教えてくれること』～タイを旅して～



●三上 順子 さん (民宿みちくさオーナー)

能勢町地黄にある民宿「みちくさ」のオーナーである三上さんは、民宿を始める前、バックパッカーとして世界中を旅され、今回は主にタイについてお話をいただきました。タイでは観光客が増加するにつれて環境への負担も増加している現状を見て、日本の観光についても問題提議されました。異文化理解とひとりひとりが身近なことから環境への取組みを行うことの大切さを学びました。

第2回 6/22(木) 『Think Global Act Local』

●武田 緑 さん (一般社団法人 コアプラス)

19歳のときに初めてピースボートに乗船し世界一周を果たした後、幾度もピースボートに乗船された自身の経験を語られました。実体験より、地域の課題解決に向けた変化をさせるためには、グローバルな視点を持ちながらローカルな場所で実現可能且つ、具体的なアクションを起こすことが重要だと語られました。



●3年 SG 重点分野講座

6/19(月)、3年 SG 重点分野講座生徒3名が大阪府立大学 伊井准教授講義「教育の法の制度」に招待され、SGH課題研究のプレゼンテーションを行い、3年 SG 重点分野講座放課後演習の成果を発表しました。大学の大きな講義室には大学1～4回生、大学院生など40名ほどの学生が出席しており、3名はやや緊張した様子で発表を行いました。発表内容は、「モンゴルのストリートチルドレン～その原因と取組」で、貧困問題に対する分析と対策への提案でした。発表後の質疑応答では、大学生・大学院生から多くの質問が出されました。中には高校生のレベルでは手に余る難しい質問もありましたが、3名は自分なりの答えを考え回答していました。



●SG 基礎知識特別集中講座

『日本の伝統文化を知る』～手話落語を通して～



●交遊亭 楽笑 さん (ごきげん企画 楽笑屋) 6/26(月),7/3(月) 2,3年社会福祉基礎
大笑い福祉使かつ落語家の楽笑さんから手話漫談やなぞ掛けを通して楽しく手話を学びました。海外の手話と日本の手話の違いなども紹介していただきましたが、コミュニケーションをしようという気持ちがあれば世界中どこでも思いは通じると語っていただきました。

『トルコという国について』

●アタカン・センゴール さん (ライオンズクラブ交換留学生)

7/18(火) 3年コミュニケーション英語Ⅲ

トルコからの交換留学生のアタカン・センゴールさんを講師に招き、3年 SG 基礎知識特別集中講座を行いました。アタカンさんは、トルコのイスタンブール出身、Karadeniz 大学の医学部1年生で心臓外科医をめざしています。トルコのよいところや国が抱える問題について語ってくれました。また、トルコはアジアとヨーロッパのかけ橋であり様々な文化が融合した国であることも学習しました。



『内閣府から東日本大震災後の陸前高田市副市長へ』～復興での取組をグローバルな視点から捉えて～

●久保田 崇 さん (立命館大学公共政策大学院 公務研究科 教授) 9/4(月) 3年現代社会

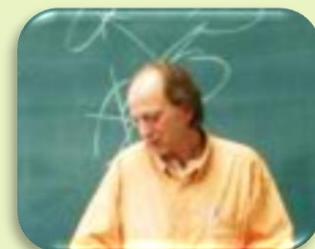
内閣府職員時代に英国ケンブリッジ大学に留学、震災直後の陸前高田市副市長に就任され5年の任期を経て現職に就かれています。内閣府の仕事から海外生活、震災復興まで、グローバルな視点で多彩な経験を語っていただきました。お話から、久保田さんが考える「グローバルな視点」とは、単に英語が話せるということではなく、様々な立場の人のことを配慮できることである、ということばの意味を理解しました。



英語プレゼンテーション講座

●ティモシー カーン さん (カナダ出身 関西学院大学・大阪産業大学講師)

幼少期より日本とカナダを往来して育ったため、日本語と英語のバイリンガルです。大学では、英語の講義はもちろん日本語で文化人類学などを教えています。





●今中 重美 さん（観光通訳ガイド・宿泊農業体験 WWOOF 実践者）

能勢で外国人向けに農業体験をすることで宿泊を提供する「ウーフ（WWOOF）」を実践しています。能勢の活性化のために地道に活動をしなが、世界に能勢を発信しています。

*「ウーフ（WWOOF）」とは、World Wide Opportunities on Organic Farm(世界に広がる有機農業の機会)の略

校外学習・国際交流

■ピースマーケット能勢 2017

5月14日(日)、淨りりシアターで開催された「ピースマーケット能勢 2017」にスーパーグローバルスタディ(SGS)受講生2年生12名、3年生5名と留学生ヴァレが参加しました。ゲルの組立に始まり能勢高校のSGH活動やこれまでの国際交流の歴史を示すパネルの展示や特設ステージでのアピール、そしてプレゼンテーションなど、みんなで協力して取り組みました。能勢高校生の大活躍により会場は大いに盛り上がりました。



■京都平安神宮で観光ガイドにチャレンジ！（大阪国際大学ワークショップ）

6月24日(土)、2年SG重点分野講座を受講する生徒13名と留学生ヴァレが、高大連携校である大阪国際大学のESS部員と一緒に平安神宮を外国人観光客に、英語で案内しました。



■『シャプラニール全国キャラバン 2017』in「エスペーロ能勢」

6月17日(土)、『シャプラニール全国キャラバン 2017』がフェアトレードショップ & カフェ エスペーロ能勢にて開催され、本校2年次生SGS受講生徒10名が参加しました。NPO シャプラニールのバングラデシュ ダッカ事務所マフザ・パルピンさんの講演で、テーマは「羽ばたけ！家事使用人の少女たち」です。社会構造そのものを変えるNGOの児童労働撲滅の取り組みを学び、NPOの活動など、国際貢献について考える良い機会となりました。



■公立鳥取環境大学英語村 訪問

7月14日(金)、2年生SG重点分野講座受講生徒13名と留学生ヴァレ、そしてライオンズクラブの留学生でトルコ(イスタンブール)から来たアタカンとで、公立鳥取環境大学を訪問しました。午前は英語村体験、午後からは環境学習・地方創生学習と、公立鳥取環境大学で充実したグローバルな一日を過ごすことが出来ました。



■オイスカ マレーシア高校生 来校

8月29日(火)、オイスカ関西研修センターを通じてオイスカマレーシア高校生19名と教員4名の計23名が来校し、能勢高校全校生徒で歓迎会を行いました。能勢高校校長、マレーシア一行代表先生、能勢高校生徒会長の挨拶があり、両校記念品交換が行われました。その後の文化交流で、能勢高校空手道部が演武を披露しました。次にマレーシア高校生による中国武術や中国ゴマ、多民族国家マレーシアならではの民族衣装ファッションショーが披露され、大いに盛り上がりました。マレーシア高校生から、「能勢高校は素敵な学校で、留学したいくらいです」との感想を頂きました。



■日本・モンゴル民族博物館 訪問

9月12日(土)、1年SG重点分野講座として、兵庫県豊岡市但東町にある「日本・モンゴル民族博物館」を1年生24名が訪問し、モンゴルの歴史や文化を学習しました。午前は館内を見学、文化祭や来年の課題研究に活かすための展示物の調査、情報収集を行いました。午後はモンゴルに関する講演「野生動物の保護活動について」が行われ、最後に、ワークショップ「モンゴル文字にチャレンジ」に参加しました。文化祭展示に向けて実物に触れる事前調査となり、来年度のモンゴル課題研究に向けての良い事前学習となりました。

